

# 環境教育「まず、今できることから」

## 歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会  
編集者：代表幹事 高橋 賢一  
連絡先：市民活動支援センター  
尾張旭市渋川町三丁目5番地7  
(渋川福祉センター内)  
TEL 0561-51-2878



平成二十五年九月二十一日(土)  
海をきれいにするには森と  
みきしつかり整備することで  
海が再生されるのです。  
三河湾を再生するには森と  
みと川の方が必要です。  
全員24名で参加しました。

四季を感じる。  
三河湾再生プロジェクトの一環で新城市千枚田に見学と体験に行きました。

### 四谷の千枚田

四谷地区の棚田は鞍掛山麓(883m)に広がる石垣による棚田の田んぼです。高低差200mに現在30戸の農家が千枚田の田を耕作しており、日本の棚田百選にも選ばれています。

刈り取った稲を棚に並べて干す「はさかけ」が、愛知県新城市四谷の千枚田で最盛期を迎えた。黄金色に輝く稲がカーテンのように棚田を覆っている。

### 稲穂のカーテン

愛知・新城の千枚田

寒暖差で熟成させる。今年夏は夏の好天で稲の生育が早く、例年より一週早く今月上旬から始まった。秋晴れとなった十一日は、表わら帽子をかぶった農家の人が作業に追われる中、日傘を手に散策する観光客の姿も見られた。



棚に並べて天日干しにし、棚田を覆う稲穂=21日午後、愛知県新城市四谷で (田中久雄撮影)



天気は快晴です。三河の奥は深く自然の風は松達の心を満喫させてくれた。  
天日干しの、はさかけのお米を食べてみたいという、良い天気はめぐまれて幸いです。やはりこれが日本の文化です。  
学校には今までこれほどよい風入は、このような風見も見ることで勇気がつけられるのです。

▲H25年9月22日(日)  
中日新聞朝刊抜粋



参加者は、静かに棚田にみとれて、いた。子供達は、何を考え見ているのか。

